

# 田代よいとこーその16ー 天台山探訪

## お稲荷様、お坊さんのお墓、監視哨跡

前号で中津神社を特集しました。その中で、中津川の流路の変遷と天台山（てんでんやま）の由来について紹介しました。その天台山ですが、5月末に6年生男子数人の案内で登ってみました。実に大変でした。最初に南側「三河屋」さんの方から登ろうとしたのですが、藪と灌木のすごさに撤退、その後、大矢孝酒造さんの裏から登りました。けっこう急な坂でした。山頂にはお稲荷様（白笹稲荷）が鎮座していました。

今回の目的は、このお稲荷様を見ることももちろんでしたが、山頂に祀られているはずの「還浄寺支配員西」（注1）というお坊さんのお墓を見つけることと、太平洋戦争時に米軍の戦闘機を見張るために作られたという「監視哨」（かんししょう）（注2）の跡を発見することでした。しかし、残念ながら今回はお墓も監視哨跡も見つけれませんでした。冬の歩きやすい時期に再挑戦しようとして子どもたちと話し合いました。

## 不思議な一致?? 鬼門、経絡、そしてレイ・ライン

ところで、田代近辺の地図を見ていて不思議なことに気がつきました。てんでんやま（孤嶽山?）を南西に進むと中津神社（小嶽明神）にぶつかり、さらに南西に進むと経ヶ岳に行き当たります（すこしずれますが、勝楽寺も同一線上にあると言っていいでしょう）。そしてこのルートはずっと進んでいくと、なんと大山に行き着くのです。これは何かの偶然なのでしょう。大山から見るとてんでんやま方向は、北東の方角つまり鬼門に当たります。『日本民俗事典』（大塚民俗学会 昭和47年 弘文堂）によると、鬼門除けに「積極的に稲荷の祠を置くなどの俗信もある」（p.193）と説明しています。え？稲荷・・・てんでんやまのお稲荷様ではありませんか！

さらに最近こんなことも知りました。出典は失念しましたが、「古い神社は、経絡（けいらく=ツボ）つまり気の流れの位置にある」というもの。さらに、イギリスの考古学者・ワトキンスによれば、やはり聖地と聖地を結ぶ経絡があって、それを「レイ・ライン」というのだそうです。

丹沢山塊は、八菅山をはじめとして古くから修験道（しゅげんどう）が盛んだったところ。山岳宗教という側面から歴史を見直すのも面白いのではないのでしょうか？



”藪こぎ”の連続でした



お稲荷さんが見つかってホッとしました



### 【注1】

宝永3年(1706)田代村差出に「浄土宗角田村還浄寺支配員西」という人物について書かれており、この僧の墓がてんでんやま山頂にあるようなのです。現在田代小のある土地に、長福寺（勝楽寺の末寺）があったことは以前に書きましたが、この長福寺の山号は「孤嶽山」です。「孤嶽山」=てんでんやまではないかと思うのですが、どうでしょう。形から言って、まさに中津川の流路の変遷によって取り残された孤立峰です。

ところで、長福寺は勝楽寺同様曹洞宗でしたが、員西に縁の還浄寺は浄土宗。孤嶽山=てんでんやまだとして、なぜその山頂に彼の墓があるのでしょうか。

### 【注2】

この監視哨は、昭和12年(1937)から16年(1941)にかけててんでんやま山上に置かれたということです。その後、現愛川中学校の近くに移されたという話を聞きましたが、そのあたりの事情をご存知の方がいらっしゃったらお教えてください。

- ◆参考文献 『愛川町郷土誌』（愛川町 昭和57年）  
（前出の他） 『愛川町の小祠・小堂—田代・細野地区』（愛川町教育委員会 1972年）  
『あいかわの地名』（愛川町教育委員会 1989年）
- ◆取材協力 大矢孝酒造の皆様 田代小6年生有志諸君